

Matsuno de Matsuno
愛媛県—松野町

松野で まつの

愛媛の桃源郷、松野町で暮らす
保存版—移住の手引き



MOKUJI

もくじ

- ① 松野でまつの
- ② 松野ってどんなところ？
- ⑤ わたしたち移住しました
- ⑪ 移住の便利帖 - 1
- ⑫ 移住の便利帖 - 2
- ⑬ 移住の便利帖 - 3

飛行機をご利用の場合

東京—松山空港	約1時間25分
大阪—松山空港	約50分
福岡—松山空港	約45分
広島—松山空港	約20分

JR(鉄道)をご利用の場合

松山—宇和島	約1時間30分
宇和島—松丸	約45分
高知—窪川	約1時間
窪川—松丸	約1時間20分

バスをご利用の場合

宇和島—松野町 (松丸・虹の森公園)	約50分
-----------------------	------

車をご利用の場合

松山—松野町	約1時間25分
高知—松野町	約2時間30分
高松—松野町	約3時間
徳島—松野町	約3時間
※松野町：松丸・虹の森公園	

船をご利用の場合

広島—松山	
▷フェリー	約2時間40分
▷スーパージェット	約1時間20分
大阪南港—松山	約8時間40分
九州小倉—松山	約7時間 5分

松野町役場 ふるさと創生課

愛媛県北宇和郡松野町大字松丸344

TEL. 0895-42-1116

FAX. 0895-42-1119

MAIL. m-iju@town.matsuno.ehime.jp

< STEREO >

MATSUNO DE MATSUNO



MATSUNOR
RECORDS



松野で まつの

作詞・作曲「矢間大藏」

あなたを生んだ町だから
ずっとあなたを まつのです
桃畑から 広見川
川になって 海になって
雲になって 雨になって
水の流れが めぐるように
戻ってきて 戻ってきて
あなたを まつの町

夢見たような 町だから
きつとあなたを まつのです
滑床溪谷 森の国
春になって 夏が終わり
秋がすぎて 冬がきても
かならず春はめぐるように
帰ってきて 帰ってきて
あなたを まつの町

わたしが暮らす町だから
ここであなたを まつのです
松丸街道 土佐街道
山をこえて 海をわたり
遠い国に暮らしていても
またすぐにめぐり会える
つながっている つながっている
あなたを まつの町

Photo _ Hiroaki Zenke
Hair and make-up _ lulu hair design studio
Model _ miinya
Photo cooperate _ Yoshinobu Station



07

私の生まれた南の島と同じように、本当に人が温かくフレンドリー。家族のようにしてくれます。

関本・エリザベス・パルマさん
〔豊岡後〕



06

わが里の、広見川沿いの山桜は格別です！四季折々、季節ごと、暮らす喜びがあります。

稲谷 保さん
〔吉野〕



03

小さいけれど、元気な町、滑床は永久不滅の財産です。移住者に優しい町でもあります。

関本良夫さん
〔豊岡後〕



02

狭い地域ならばこそ、絆が深い里山です。あまり他人を詮索しない距離感もいいですね！

上岡昭彦さん
〔奥野川〕



01

音楽好きマスターが本格カクテルを出す店もあります。しっかり飲んで遊べますよ、松野！

谷口清二さん
〔松丸〕

09

私の里は米がうまい！米作りの担い手になりたい人、農業したい人はいつでもおいでなさい！

森田 守さん
〔富岡〕



08

のどかな町で、自然豊かで、人の心は広い。ゆったりした時間が流れておりますよ！

毛利憲幸さん
〔豊岡前〕



どんなに情報を集めても、移住フェアに出向いても、結局のところ、住んでいる人に話を訊くのが一番手取り早いんじゃない？ということで、松野に生まれ育ち、現在も松野で暮らしているネイティブな“松野人”に「ホントのところ、松野ってどうなのよ」というお話を聞いてきました。

ネイティブの人に聞く
松野って
どんなところ？

04

親子で桃農家をやっています。交通の便もよく病院もある。子育てもしやすい。とても住みやすい町です。

岡本須美子さん(左)
岡本千昭さん(右)
〔延野々〕



10

中学まで医療費は無料、学校ではタブレット一人一台。一人ひとりにきとどいた子育て環境です。

石川雄一さん
はな 花菜ちゃん
〔吉野〕



05

温かい人が、関わり深く暮らす里です。子育て環境抜群！きれいな里ではきれいな心が育ちます。

坂本留美さん
〔目黒〕



見知らぬ人を
全力でもてなす。
そんな地域の
とりこになる。

松山で育った兵頭耕平さん
が、はじめて松野町を訪れたの
は30歳のとき。松野の友人に誘
われたのがきっかけだった。「泊
まった農家民宿のオーナーが、
見知らぬぼくを全力でもてな
してくれて。味わったことがな
いひとの温かさにやられました
ね」。

高校を卒業し、都会への憧れ
から進学先に大阪を選択。とこ
ろが、満員電車や隣人さえ分か
らない都会暮らしは「なじみま
せんでした」。

松山のカメラ専門店で就職
し、仕事のやりがいも感じてい



兵頭耕平さん
妻 佳奈さん
長男 観作くん

夫・耕平さんは神奈川県出身、松山市
育ち。妻・佳奈さんは大阪で生まれ育
つ。耕平さんが松野町に移住し結婚。
息子観作くんが誕生。

人付き合いの濃度に惚れた。
住みたい場所に住む、という幸せ。



でいる。
「いろんなひとに感謝されるこ
とに喜びを感じています。『あん
たと話すと元気が出るわ』と言
われると本当に嬉しい。自分が
必要とされる暮らしに、幸せを
感じます」
自分の感性を大切に、暮らす
場所を選んだ耕平さん。住みた
い場所に住む幸せをいま、噛み
しめている。



ものの、松野町のゆたかな自然
とひと付きあいの濃度に惚れこ
み、移住を決めた。
2017年、松野町の地域おこ
し協力隊(※)として働きながら、
6年の遠距離恋愛の末に結婚し
た佳奈さんと息子さんの3人で
上家地区に暮らす。来たばかり
のころ、孤独を感じ、ずっと家で
過ごしていた佳奈さんも、地域の

ひとたちが心配して、栗拾いや梅
とりを口実に外へ誘ってくれるな
ど、さりげない心遣いに触れ、不
安が消えていったという。地元民
でも住むのをためらうほどの辺
境の地は、里山の豊かさで助けあ
う心に満ちていた。
協力隊になって一年半、耕平さ
んは担い手不足や高齢化などで
必要な農作業のサポートに励ん



(※)人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域
外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、
その定住・定着を図ることで地域力の維持・強化を推進してい
くことを目的とした制度。(写真／右ページ)自宅近くの路上に
て。お隣とは数十メートル離れている。(写真／左ページ上から)
大阪出身の佳奈さん。スーパーもコンビニもないけれど、さほど
不便は感じないそう。(写真／中)高校からの友人と、同じく地
域おこし協力隊としてはたらく同僚が毎日のように遊びにきてい
る。(写真／下)過疎地域の上家地では、こどもは地域の宝。



〔移住時の年代〕

20代 30代 40代
50代 60代

〔家族構成〕

単身 夫婦 夫婦+こども

〔移住のかたち〕

Iターン Uターン Jターン

〔移住者へのアドバイス〕

移住前に、地域のひとと時間を過ごす
のがオススメ。松野町にいくつかある農家民
宿で泊まると、食卓は住民のひとと一緒に
だし、朝まで飲んだりすることも。

〔びっくりしたこと〕

佳奈さんが不在中、耕平さんが風邪に。そ
れを知った近所さんが耕平さんの自宅
前にクーラーボックスを設置し、手作り弁
当を入れておいてくれた。

〔お気に入りの場所〕

じぶんたちが住む上家地区です。
夜、ふと見上げればいまにも手が届きそ
うな満天の星。自然の音だけが聞こえ安眠
できます。日常に感動が潜んでいますよ。

求めなくても
地域に必要とされるって心地よい。



岡本新也さん
妻 紗代さん
長女 香凜ちゃん
次女 成未ちゃん

地元出身の新也さんと県内出身の紗代さんは結婚後、松前(まさき)町で6年間生活。2014年松野町へ移住。新也さんは現在、地元の農林公社に勤務し、紗代さんは保育士として働く。

あのころに見た
田園風景の中で、
わが子たちを育てたい。

清流が美しい広見川、どこまでも広がる田園風景。この町で生まれ育った岡本新也さんにとって、故郷を離れてもその景色はずっと心の中にあった。

高校を卒業後、熊本県熊本市の測量専門学校へ。その後、松山市内の測量会社に就職し、紗代さんと結婚した。

隣町の松前町(まさき)で暮らし6年。長女香凜ちゃんが小学生になるタイミングで、「自分があじわった豊かな松野町の環境の中で子どもを育てたいと思いました。親のこと、30歳という節目もあって戻ることを決断しました」。

12年ぶりの故郷暮らしに、不安はあったものの、新也さんを待ち受けていたのは、地元消防団からソフトボールやフットサルなどスポーツ系まで、いろんな地域活動への誘いだった。

「こちらからアピールしなくても、地域の居場所がむこうからやって来る感じが今までになくて新鮮でした。とても嬉しかったですね」と、新也さんはほほえむ。これまで住んだ場所も「地方」には変わりなかったが、地域の密なつながりはほとんどなかったそうだ。紗代さんも「子ども会など地域のイベントが多く、みなさんとても親切にしてくれます」と松野町の魅力を話す。

新也さんは、地域おこし協力隊として3年の任期を終え、いまは松野町農林公社で、協力隊時代に携わった桃栽培を続けている。高校で農業を学んだが、松野に戻るまでは農家になる選択肢は頭に無かった。それが、協力隊の任務をきっかけに「から学び直すこと」。「いつか桃農家として自立したい」。新也さんは故郷で、地域の居場所と新たな夢を手に入れた。



(写真/右ページ)団地に住む岡本さんの自宅周辺は美しい山々に囲まれている。(写真/左ページ上から)自転車に乗っている人などへ遊びに行けるようになった優しいお姉ちゃんの香凜ちゃんと、早く自転車に乗れるようになりたい成未ちゃん。(写真/下)お父さんとお母さんが大好きな成未ちゃん。あの手この手でくっきます。



〔移住時の年代〕

20代 30代 40代
50代 60代

〔家族構成〕

単身 夫婦 夫婦+こども

〔移住のかたち〕

Iターン Uターン Jターン

〔移住者へのアドバイス〕

公共交通機関のバスや電車は本数が少なく不便です。こちらで暮らすには、自家用車は必須です。移住する前に運転免許をとり、車を購入することを忘れなく。

〔びっくりしたこと〕

地元のひとたちのコミュニケーション力です。世間話など気さくに話かけてくれることに最初驚きました。野菜などの食べ物をいただくこともしょっちゅうです。

〔お気に入りの場所〕

娘の香凜はこの夏、自転車で10分の広見川でほぼ毎日遊びました。小魚をとったり泳いだりしたそう。カブトムシもどこでもいるし、楽しい夏休みが過ごせますよ。

まわりの環境で
 子どもは
 変わると気づいた。

茶畑や田んぼ、森の緑に
 囲まれた場所で、同じ敷地
 に祖父母、父母と3世代で
 暮らす金谷千寿さん。レンコ
 ン畑もあり、清水で鯉が泳ぐ。
 子どもたちにとっては「家は
 遊び場」という理想的な環
 境だ。

金谷さん一家は2016
 年まで、香川県高松市に住
 んでいた。「アパート暮らしが
 手狭になって。交通量も多く、
 なかなか外で遊びに行くこ
 ともできませんでした。もっ
 とのびのび子育てできる環
 境で育てたかったんです」。
 3人目のお子さんができ、千
 寿さんの生まれ故郷である
 松野町に戻った。
 夫・優貴さんは高松市出
 身。引越すことに抵抗はな
 かったのだろうか。「静かな

4世代で暮らすいま、
 ストレスフリーの子育て実践中。

ちひろ
 金谷千寿さん
 夫 優貴さん
 長女 優希ちゃん
 次女 みひろちゃん
 三女 はるちゃん



松野町出身の千寿さんと、高松市出身の優貴さん。2017年に千寿さんの故郷に家族で移り住む。千寿さんの両親と祖父母と4世代で同じ敷地に暮らす。

場所が好きなんです。ここは虫
 や鳥の声がしない。この環境
 で暮らせることは本望です」と
 優貴さん。

現在、千寿さんは作業療法士、
 優貴さんは看護師として、車で
 20分の同じ職場で働いている。
 「信号にひっかからないので通勤
 はスムーズだし、同じ仕事でも
 日々のストレスが減りました」と
 2人は口をそろえる。



新天地で一年がたち、驚くの
 は子どもたちの変化だ。地域の
 ひとたちが子どもに声をかける
 のが当たり前で日常で社交性が
 育った。



〔移住時の年代〕

- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代

〔家族構成〕

- 単身
- 夫婦
- 夫婦+子ども

〔移住のかたち〕

- Iターン
- Uターン
- Jターン

〔移住者へのアドバイス〕

この地域はスギ花粉だけではなく、ドングリやクリと花粉の種類も多いため、花粉が飛ぶ期間が長いです。花粉症のひとは注意が必要です。

〔びっくりしたこと〕

旬の野菜や食べ物をよくいただきます。7月頃には天然ウナギも！養殖とはまた違うおいしさがあります。清流が多いため、天然ウナギがたくさん捕れるんです。

〔お気に入りの場所〕

自宅一帯です。すぐそこに祖父の茶畑が広がっています。てっぺんから見下ろす景色は最高ですよ。歩いて10分の神社の桜も圧巻の美しさです。

「家の近所に仲良しのおじちゃんがいて、子どもたちだけで遊びに行くこともあります。人懐っこくなりましたね。たくさん大人の目があるので子育てが楽になりました」
 4世代、そして、地域のひとたち。たくさんひとたちから育てられている3姉妹。その元気な声がのどかな風景に響き渡っていた。



(写真／右ページ)千寿さんのおじさんの茶畑の前で。(写真／左ページ上から)水路を覗く長女優希ちゃんと次女のみひろちゃん。(写真／中)いつも元気いっぱいの三姉妹に目が離せない。(写真／下)隣に住むおじいちゃんおばあちゃんからはときどき夕飯のおかずのおすそ分けが。

移住しやすい、暮らしやすい。

松野町のいいところ。

移住サポート補助事業

● おためし移住

松野町に移住の下見としてこられた方には、宿泊料を支給いたします。

● 住まい

県外から移住した人が、空き家をリフォームしたり、その家財道具を搬出したりするときは、県と町がその費用の2/3を補助いたします。

● 結婚

結婚祝い金10万円を支給します。

● 出産

1～2人目／10万円
3人目／50万円
4人目／70万円
5人目以降／100万円のお祝い金を支給！

● ひとり親

移住を目的とする下見旅費、引っ越し、新生活、婚活等の補助金があります。



子育てサポート補助事業

● 医療

中学校卒業まで、すべての子どもの医療費が無料です。また、任意予防接種（ロタウィルス・おたふくかぜ）の費用を全額補助いたします。

● 保育料

保育園の保育料は、第一子から第二子までは基準額の半額。第三子からは無料です。（国の基準では第二子から）

● 給食費

町内の小中学校に通う生徒の給食費を半額補助いたします。

● おむつ券

満一歳未満の乳児へ、第一子からおむつ券を50,000円分進呈いたします。（県補助では第二子から実施）



／ 待つとるよ！ ／



移住コーディネーターが常駐！

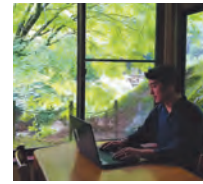
矢間大蔵 やざま・だいぞう

松野町役場ふるさと創生課所属。愛媛県宇和島市出身。2014年4月に地域おこし協力隊として愛媛県松野町に移住。3年間の任期を終えた2017年4月より、町の移住コーディネーターに就任。いつでもご相談ください！

生活

● テレビ・インターネット

光回線による有線放送網を全町域に整備済みです。定額料金を払えば、ケーブルテレビ、ブロードバンドインターネットが楽しめます。



● お買い物

町内には、よろず屋、スーパー、コンビニがあります。また、町内の中心より車で10分行けば、隣町のバイパス沿いに日用品が揃うお店が多数並んでいます。商店街のある中心都市、宇和島までは車で30分です。



● 組内集落のおつきあい

町内には数戸からの自治組織「組内」と、その「組内」が集まってできた大きな組織「集落」があり、それぞれに近隣住民の親睦と相互扶助を図っています。



● 消防団

主に町内の若い男性で組織されている松野町消防団は、町の安心安全の要です。火災、災害時の緊急出動はもちろん、地域の消防署本部と連携し、防災に対する啓蒙活動や訓練会が行われています。



● 金融機関

伊予銀行、ゆうちょ銀行、JAバンクの各支店、支所があります。



教育

● 小中学校

町内には2つの保育園と2つの小学校および1つの中学校があります。いずれも都会の学校に比べ生徒数は少ないですが、その少なさを活かした、目の行き届いた教育が行われています。また、共働き家庭のための放課後児童クラブもあります。



● おけいごと

町内には、ピアノ、書道、英会話、日本舞踊、フラダンスなどの教室のほか、野球、サッカーなど、子どもから自由に参加できるスポーツチームがあります。



医療

● 中央診療所

中央診療所では、内科、外科、小児科、リハビリテーション科の診療を行っています。4人の医師による交代制です。



※2018年1月現在の情報を抜粋して掲載しております。補助金の支給などには諸条件があります。詳しくはお尋ねください。

松野ええところ、こんなところ。

「とにかく町民性がええけん」

南伊予と西土佐をつなぐ交通、経済の中心として栄えた二つの宿場町。

「松丸」と「吉野生」が一つになって「松野」。そこには鄙美(ひなび＝里山らしさ)と都美(みやび＝みやこぶり)が同時にあふれとります。

人口はわずか4,000人。愛媛でもっとも小さい町。でもだからこそ、里山らしい絆にあふれつつ、しかもそれぞれが自由。

宿場町の伝統が育んだよそ者への優しさもあるけんね。

そのうえ町がコンパクトがだら、よろず「話が早い」といわれとります。



「自然の深さが違うけん」

そこは愛媛の最深部。

いっとくけど、大都会からは遠いけんね！

けれど、都会にないものがある。

四万十水系の2つの支流と、南予アルプスこと鬼ヶ城山系の高い山、深い谷がおりなす深山幽谷の世界。

キャニオニングにバイクレース、非日常のアウトドアが、松野なら「すぐそこ」。

しかも、宇和海、四万十、太平洋をつなぐ松野町は四国西南のヘソ。

極めつけの海山暮らしがあなたの日常になるんやけん。



「面白スポット豊富やけん」

深山幽谷の美を心おきなく堪能できる、国立公園「滑床溪谷」。

アマゾンを見上げる。

ペンギンにさわる。

県内唯一の水族館「おさかな館」。

旬の特産品から、ガラス工房体験まで楽しめる道の駅「虹の森公園まつ」。

中四国ではここだけの駅ナカ「森の国 ぼっぱ温泉」。

県内二例目の国指定文化的景観「奥内の棚田」など、注目を集めるスポットも

いっぱいあるけん！



松野町の地勢

愛媛県の西南部に位置し、高知県と境を接する山間の町。町土の84％は森林で、国立公園「滑床溪谷」を有し、広見川・目黒川等の豊かな水は天然うなぎ・川ガニの宝庫です。その昔、土佐街道の要所で、物流・交易の場として栄え、その町並みは今なお保存されています。

「森の国」にいらっしゃい！



〔町長ご挨拶〕

松野町長 坂本 浩

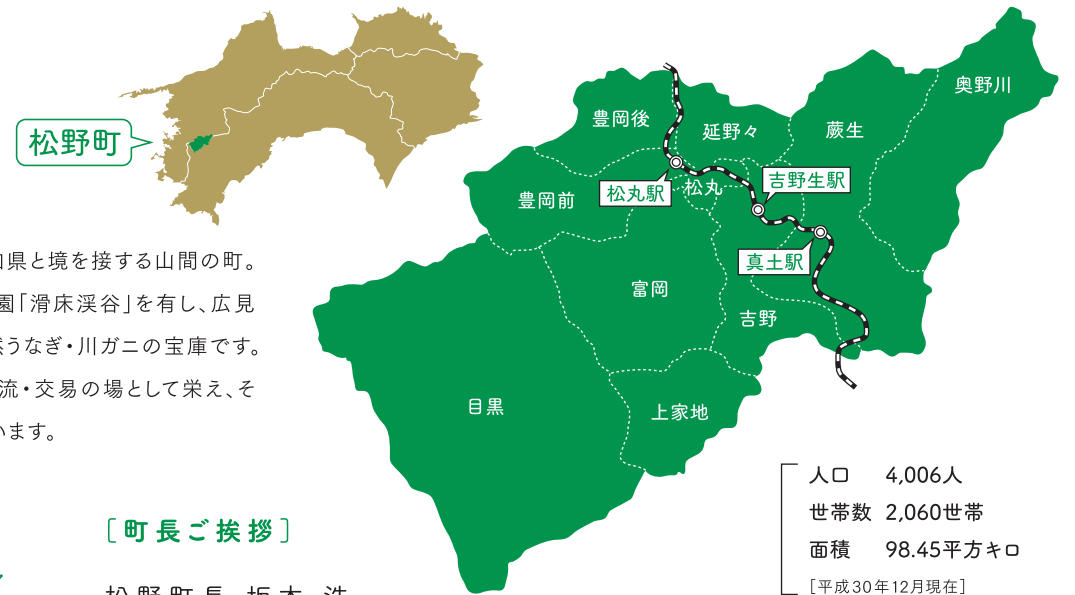
松野町は、愛媛県で一番人口の少ない町。

でも、笑顔はじける元気人がいっぱいいて、それぞれの得意分野でがんばっています。

また、国立公園滑床溪谷に代表されるように、四万十川源流域の豊かな森と美しい川に恵まれていて、「森の国」と呼ばれています。さらには、日本の農村の原風景といえる歴史的文化的景観も、人々の暮らしとともに残されています。

このような松野町の魅力を最大限活用して、小さな町だからこそ実現可能なまちづくりに取り組んでいきたいと思い、「小さな町の大きな挑戦」と銘打って町政推進のスローガンとしました。

ぜひ皆さま、森の国・松野町に移住していただき、静かな中にも活気に満ちた里山暮らしをはじめませんか？



「おいしい」いっぱい松野町！



【天然うなぎ】

昔ながらのジゴク漁で、母なる広見川から水揚げ。脂がのりつつ、身の引き締まった絶妙な味わい。



【ツガニ】

正式名称はモクスガニ、かの上海ガニの亜種で、味は濃厚、恍惚とさせるほどうまい、秋の美味です。



【ジビエ】

松野が誇る加工場「森の息吹」がお届けするジビエ肉は全国の高級料理店でも愛されています。



【桃】

松野は知る人ぞ知る良質な桃の産地。桃作りの名人たちが、様々な品種の栽培に取り組んでいます。